
魔導師探偵W/魔法少女リリカルなのはA's

二人で一人の探偵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

魔導師探偵W / 魔法少女リリカルなのはA's

【Nコード】

N2146BA

【作者名】

二人で一人の探偵

【あらすじ】

前回から続く続編をスタートです

また新しい事件に直面した魔導師探偵と魔法少女彼等ほどの様に深く悲しい闇が渦巻くこの事件にどう立ち向かう？

そして今回は新たなIFのストーリーです、別の作品とのコラボです
彼等との出会いで新たな世界線が生まれた、それでは始まります！

W 主人公紹介 & a m p ; オリジナル設定（前書き）

さあて、いよいよ始めました魔導師探偵 W / 魔法少女リリカルなのは A・S

先ず最初に前作からの人物達の紹介とオリジナル設定の説明をしたいと思います

その後プロローグです

W主人公紹介& a m p ;オリジナル設定

キャラクター一覧表

この作品の二人の主人公・仮面ライダーW

名前：黒木 翔くろぎ しょう

性別：男

年齢：12才

性格：正義感が人一倍強く誰かの為には動かずには居られない、でもその事で良く自分の事をハードボイルドと言ってるが周りにはハーフボイルドと呼ばれてる、しかし一度受けた依頼は必ず果たす事を決め頼まれたら断れない性格の持ち主

好きな事& a m p ;嫌いな事：穏やかな時間を過ごす事、人々の笑顔、依頼を達成した時/命を大切だと思わない奴ら、力を誇示しようとする者、誰かの笑顔を涙に変えてしまう事、フィリップの無駄な検索時間

趣味& a m p ;特技：探偵小説を読破する事、コーヒーのブレイクタイム、帽子集め/カッコ良く帽子を被る事、家事全般、料理、バイクの整備、格闘術

容姿：見た目は翔太郎似、服装も同様、黒い帽子、身長168? (前作から3?程伸びた)

備考：6年程前自分の両親はスパイダードーパントの能力で爆弾人間に変えられ自分を助ける為命を落とした

両親の名は父：黒木 ジョン/母：黒木 鈴(お互い享年26)

その後初代魔導師探偵で有る鳴海荘吉「仮面ライダースカルに助けられ自分が魔法の世界の住人だと知り更に伝説の双玉の魔導師の生き残りだと知らされた以来弟子となり5年程共に行動し護身術の代わりにストライクアーツを学びその実力は有段者並みでそれをWに反映させている、恩師・鳴海荘吉の最後の依頼を受けた、しかし自

分の勝手な決断で恩師を死なせてしまった…それが自分の罪

その時フィリップとの出会いを果たし、最初はこんな奴は信用出来ないと思った…しかし何時の間にかお互い背中を預け相棒になった…

魔導師ランクSSS（リミッター付でAAAランク）

イメージCV：櫻井 孝宏（声質・hack／／G・U・のハセヲ）

名前：フィリップ

性別：男

年齢：不詳（15才前後）

性格：魔少年、自分が閲覧したい知識は必ず閲覧する、興味深い対象物になったら徹底的に検索をする興味が無くなったら【興味が無い】と言って、また新しい興味対象を探す

好きな事&嫌いな事：とことん検索をする事／検索を邪魔される事、中々閲覧が出来ない事、翔が無茶をして傷付く事

趣味&特技：検索時間、対象物に出会う事／閲覧した者達の動きの動作を自分に反映が可能その後筋肉痛になる、デバイス&ガジェット&リボルの整備と調整

容姿：見た目は原作通り、緑のパーカを着ている、片手には何時も黒い本を持っている、身長167？

備考：元々アルハザードの住人だった、ある日アルハザードのデータベースに落ち命を落とした、アルハザードの蘇生技術で命は助かった…しかしそれは禁忌の行いで有った、その技術で蘇生された者は一生老いは訪れずそのままの姿で生きる事、しかし命は有限で有る更に詳しく調べて分かったなのは自分が次元の本棚にアクセスする事が可能になり体はデータ人間になれる事が分かった…事故のショックで記憶を失い自分が何者なのか分からない、ただ過ぎる時間をそのまま生きていた

アルハザードの科学者から誘いを受けマジックメモリの制作に携わり以来制作に没頭した、だが…それは悪魔になるの誘いで有った、どれ程の時間が経ったのかは分からない…ある日一人の探偵と出会

った、その探偵の言葉で自らを縛り込んで居た暗闇の牢獄から抜け出した…その代償の様に探偵は死んでしまった…一人の少年と出会い共に脱出したが今まで犯した罪と業を背負うかの様に罰が訪れた、その罰で自分は一度体を無くしリングに意識を置いたその後、別の依頼を受け少年と共に行動し自分の罪を知り折れそうになった…しかし立ち止まって居られなかった自分の犯した罪は永遠に消える事は無い…だから償う事を決めた自分の有限で有るこの命に懸けて何も決断をしなかった自分と決別する為に

魔導師ランク：不明

イメージCV：菅田 将暉

オリジナル設定

自分が描くWは原作とは違ったオリジナル設定で有りIFの要素ですリリカルなのはの世界と、どう組み合わせるか、そう考えて彼等を描きました、それではこの世界での設定を説明したいと思います

双玉の魔導師：特異体質の持ち主の部族で有りリンカーコアが体の中に二つ有る事で双玉の魔導師と呼ばれる事になった

彼等は太古の時代からミッドチルダに住んで居たしかし時代が経つ事に連れ数が年々減って行き時代の陰に隠れその存在を誰も知る者は殆ど居ない

マジック メモリ

魔法の記憶：これは原作で言えばガイアメモリと同じ扱いになるモノです、しかしこのメモリを普通の人間が所有した場合命を削り最悪な事にその存在自体消滅する、体にリンカーコアを宿した者が所有すれば命は削られず魔力を消費する…使用方法は体の一部に生体コネクターを取り付けメモリを差し込みドーパント化する、しかし使用し続ければメモリに心を奪われ本当のただ人を狩るだけの【化け物】になってしまう

言い換えれば危険すぎる麻薬以上の代物で有る

さて次は待ちに待たせた我らのヒーローこの世界の仮面ライダーの紹介です

仮面ライダーW & amp ; 仮面ライダージョーカー

仮面ライダーW・変身者 黒木 翔/フィリップ

翔とフィリップがお互いのリングに「W・モード・セット・アップ」と叫び、お互いの腰にWドライバーを装着し翔に特殊な黒のBJモチーフはライダースーツでそれを身に纏いその後二本のマジックメモリを差し込み仮面ライダーWに変身する、この時翔はランクを一つ外しSランクで有る…どうして二人が仮面ライダーになったのかはお互いの罪を償い闘う罰を受ける為で有り、これ以上誰かが涙を流すのを止める為に闘う…風都の彼等とは少し違うが街を守る彼等と同じく正義の心は負けていない…世界を守るそれがこの世界の彼等の務めなのだから

プロフィール & amp ; メモリ能力

身長 195 cm

体重 85 kg

パンチ力 2.5 トン

キック力 6 トン

ジャンプ力 ひと跳び 60 m

走力 100 m を 5.2 秒

腰に装着したWドライバーに二本のメモリを差し替え様々な能力に入れ替わる

フィリップ・サイド

CYCLONEメモリ：風の記憶

風を操る能力を持ち、様々なメモリと組み合わせフィリップが愛用するメモリ

HEATメモリ：炎の記憶

炎を操る力を持ち、爆発的な攻撃力に特化し強力なメモリで他のメ

モリの力を倍に強化する

LUNAメモリ：幻影の記憶

幻影を操る力を持ち、他のメモリに変化の能力を加え変幻自在の攻撃をし敵を翻弄する

翔・サイド

JOKERメモリ：切り札の記憶

肉体強化の能力を持ち、格闘戦に特化した翔が愛用するメモリ

METALメモリ：闘士の記憶

METAL専用武器メタル・シャフト、背中から現れる

それを掴み向かい来る敵を薙ぎ払う、力強いメモリ

TRIGGERメモリ：銃士の記憶

TRIGGER専用武器トリガー・マグナム、胸から現れる

その弾丸で敵を撃ち貫く、精密性の高いメモリ

仮面ライダージョーカー・変身者 黒木 翔

これは翔自身がシングルで闘うスタイルで有り

使用条件は【ロスト・モード・セット・アップ】と叫び

ロストバージョンのBJを身に纏い（W・モードの奴と酷似してる）

JOKERのメモリを差し込み仮面ライダージョーカーに変身する、

この時の魔導師ランクAAAで有る

プロフィール&能力

身長195cm

体重83kg

パンチ力2トン

キック力5.5トン

ジャンプ力ひと跳び55m

走力100mを5.5秒

仮面ライダージョーカーの能力

肉体強化の能力を得たジョーカーの戦闘方法は主に格闘戦で有りこの時恩師鳴海荘吉に教えられたストライクアーツを使い闘って来た、しかしデメリットが有るメモリをチェンジする事は出来ず単体のみで闘うので少し燃費が悪い

デバイス：Wドライバー & ロストドライバー

普段の待機時の姿は緑と黒のリングタイプのデバイスで【セットアップ】時にドライバーに変化する仕組みで有る

第一期では連結して使っていたが、現在フィリップの体を維持する為切り離しお互いの右手首【フィリップ】左手首【翔】に装着して居る

MAXIMUM・DRIVE：Wとジョーカーの必殺技

主に使用する時は敵に止めの刺す時で有りまた、ピンチの時使用する発動状態では、ジョーカーの時はランクSになりWの場合はランクSになる

ドーパントに対しては【メモリブレイク】と言い

魔導師や魔法生物の場合【マジックブレイク】と言っている

メモリブレイクされたドーパントはマジックメモリとリンカーコアを同時に碎かれ体の身体が停止し植物状態になる

マジックブレイクされた者は1、2週間程魔法が使用できなくなるただし、打ち所が悪い時の場合で上手く避ければ軽傷程度で済む

主な説明はこれ位で良いですね、では次はプロローグを書きます
それでは待っていてくださいね！

プロローグ1（前書き）

さて此処からはビギンズナイト編の後：2カ月半程たった時期です
時間軸で言えば12月の少し前です、それでは始めます

プロローグ1

場所 管理局外第97番世界「地球」海鳴市 高町家

なのはside

なのはノナレーション

皆さん、お久しぶりです高町 なのはです。あの事件から5カ月半程経ちましたMN事件と名付けられたあの事件は今でも忘れません。あの事件で私はユーノ君そして私とデバイスとなったレイジングハートと出会い本当に今でも驚きですユーノ君は魔法の世界の住人さんで自分がこの世界に落とした21個の願いを叶える宝石ジュエルシードを集める為一時的に私に魔法の力を与えた私は魔法少女になりました最初はただ暴走したジュエルシードを封印すれば良いと思いましたがでも、少し周りが見えてなかった。あの日は大失敗をしました気のせいだろうと思いきやジュエルシードの反応に気づかず居た、そしてこの街を傷つけてしまった。だから私は思った。ただ力が有れば良いだけじゃないそれを担う責任も有るのだと。それから暫くしてもう一人の魔法少女とそしてあの双色の仮面の戦士と出会いでした最初はどうしても彼等は共に闘って居るのだろうとでもそれは徐々に知って行きあの戦士はあの少女の為に闘って居る事を知りました。その仮面を付けた人はとても心が優しい人で誰かの為に仮面を身に纏うそんな人、でも。一人の少女には有る秘密が有ったそれはちゃんと生まれて来た命では無かった。それは少女の母親が昔死んでしまった娘を取り戻す為人工的に生み出されその子の変

わりとして育てられた…でも、結局は上手く行かずその子を道具の様に扱って居ただけ…でも、心優しき仮面の戦士は少女の境遇を知り闇に包まれたその子の心を救った、そして過去に囚われたその母も救いハッピーENDで終わると思った…でも少女の母は犯した罪を償う様に深い眠りに入りずっと見守る事を選んだ…今頃あの人達どうして居るんだろう髪が長く金髪で黒いデバイスを扱う魔法少女フェイト・テスタロッサ、そしてその使い魔アルフ…そして今も世界を守る為闘い続ける双色の仮面の戦士・仮面ライダーWあの時彼等が居なければきつと世界は壊れて居たのかもしれない…それでも彼等は命を張って世界を守った…だから私は彼等に憧れを抱いた自分達の力を誰かの為に使える事を…ナレーションはこれ位にしますね、では改めてスタートです！

なのは

「ん〜日記何書こうかな…やっぱり学校の出来事それとも魔法かな…元気してるかなフェイトちゃんに翔君」

なのはは、机にノートを広げ日記を書いて居た、それはあの時からずつと書き貯めて来た日記で有りあの時事を忘れない為にそしてその横には一人の金髪の少女と黒い帽子を被った少年と中心に自分が写った写真を見ていたあの時別れの時写真を撮り机に飾りそれを見つめて居た

なのは

「きつと元気にしてるよね…それじゃ今日の魔法の特訓の時でも書こうかな」

そう言つて日記を書き進めやがて書き終え夕食の時間が訪れノートを残し部屋を後にした

日記の最初の一ページにこう書かれて居た

なのはノ日記

「また何時か会える日を信じて…頑張ります!」

そう可愛く書かれていた…しかしその時は直ぐ迫つて居た

なのはs i d E n d

場所 管理局第1世界「ミッドチルダ」鳴海探偵事務所

翔& a m p ;フィリップ& a m p ;フェイト& a m p ;アルフ s i
d e

フェイト

「ふーう、今日も魔法の特訓疲れた…でも、最近充実してるかな…
今頃なのはも日記書いてるのかな私も書いて置こつ」

そう言つてフェイトは部屋に入り机に座りなのはから貰つたノート
である日から日記をつける様にして居たそして何時の間にか疲れて
寝てしまい風でページが捲れ別の日の日記がページが開いた

翔

「オーイ、フェイト晩飯出来たぞ…つて寝てるな今日の特訓はハ
ードだったからな」

翔はフェイトの部屋に訪れ夕食の準備が出来呼んで見るが当の本人
は現在寢息を立て眠つて居た
それは無理も無いWの特訓に付きあわせ疲れが溜まつて居たのだろ

うフェイトの寝顔を確認し背中の上着をかけて上げ立ち去ろうとするが不意に日記が目に入った

翔

「これは…日記しかも日本語しつかり俺が出した課題を生かしてるじゃないか…んゝどれどれちゃんと書いてるかどうかな…」

翔はフェイトに日本語の勉強をさせていた…何時か必要になると思っ
て勿論自分の復習の為に一緒に勉強をし今では普通に日本語会話が
出来る、そして日記にはこう書かれて居たそれはあの事件の後の事
だった

フェイトノ日記

「今回の闘いできつと翔やフィリップは、凄く悲しいと思ってる…
でも、それでも闘うのだろう…ただ守る為だけに闘い続ける…でも
本当は闘う事が嫌いなんだ、だって…彼等の背中は何時も悲しそう
だから…でも何時か必ず…闘いが終わる日が来る…その日が来る事
を願う私はあの人達の為に頑張りたい…それが今の私に出来る事だ
から…」

翔

「…闘う事は嫌いか…ああ、そうだ闘う事は【大嫌い】さ、でも、
それでも俺は闘うよこの力を守る為に有る勿論…フェイトお前を守
る為に有る…だから闘い続けるぜ…」

そう言っ
てノートを机の上に置きポンと優しく頭を撫で部屋を立ち
去ろうとしてドアを閉めようとする前に一言こう言っ
た

翔

「頑張れよ、小さな魔法使いさん…なんてな」

ゆつくりドアを閉め立ち去った

???

「やれやれ、相変わらずの【ハーフボイルド】だね」

その声を聞き後ろを振り返ると目の前にフィリップがニヤニヤと笑みを浮かべて居た

翔

「って、なんだよフィリップ！何でお前が此処に居るんだよ！」

フィリップ

「いや、もう直ぐ夕食だったからね…フェイトを呼びに行った君を見掛け着いて来た訳だし…ハードボイルドには程遠いね、だよね【お兄さん】！」

翔

「だあ……！オメエにお兄さんって言われたくねえよ！第一俺より年上だろお前は…」
「たく覗き見とは趣味が悪い相棒だぜ…」

フィリップ

「君を見てると退屈はしないよ…それにフェイトもね、早くあの子に兄と呼ばれると良いね【お兄さん】！」

翔

「だから言っな、フェイトは少し寝てるからもうちょい後にするぞ…」

フィリップ

「ああ、それは良いけど居間に行った方が良いと思うよ」

翔

「それどう言う意味だよ？」

そう言っただけ居間のテーブルに並べて居た一人分の料理は既に食べられていた勿論犯人は…

アルフ

「あ…えつとゴメン」

食い意地の張った狼が食べて居た

翔

「コラ！アルフ何勝手に食ってんだよ！腹が空いたのは分かるがもう少し待って置けよな…」

そう言っただけ深くため息を吐く

アルフ

「ご、ゴメンあんまりにも良い匂いしてたからつい出来心で…でも、翔の料理相変わらず美味しいね」

翔

「そいつはどうも、仕方ないもう一度作り直すかそう言われたらな…それにメシは皆で食べた方が美味いってな、それとちゃんと手伝えよ良いな？」

アルフ

「あいよ、そうだね皆で食べた方が美味しいよね…いっちょ頑張る

か」

翔 「うっし、それじゃ…」

そう言った時突如スタッグフォンが鳴り出し電話に出て見る

翔

「はい、もしもし？お、クロノか久しぶりだな」

クロノ

『ああ、そうだなそれと良いニュースを手に入れた実は…』

翔

「え？ああ…え？マジかよ？そつか久しぶりだなアイツに会ったのえっと大体一週間後か…了解伝えて置くよ、またな！」

そう言ってスタッグフォンを切り笑顔を向ける

アルフ

「今の電話ってクロノ？ねえ何話して居たんだい？」

翔

「ああ、実はな…ユーノが裁判関係でこっちに来るってよ、どうやら次元空間が安定してさ…ほら先にフェイトの裁判進めたる？それより後手に回ってさクロノが取り立ててくれてようやく落ち着いた訳だ、裁判が終わったら皆で地球に行くって訳だ！」

フェイト

「それって本当？」

その時起きて来たフェイトが驚きの声を上げた目を開き眠気が完全に覚めた

翔

「ああ、本当の本当だぜ！良かったなフェイトこれで会いに行けるな…なのはちゃんに…」

フェイト

「うん！待っててね、なのは…ああ、早く来ないかな一週間後…」

フェイトは飛び跳ねるぐらい楽しみにしていた…しかしその再開は思わぬ形ですることになるのを知らなかった

プロローグ1（後書き）

プロローグ2に続く、お楽しみに！

プロローグ2（前書き）

新し闘いの火蓋が切って落とされようとしていた

プロローグ2

一週間後 12月1日

場所 時空管理局本局

翔&フィリップ&フェイト&アルフ&ユーノ&管理局side

そこは次元空間内でひっそりと潜む大型の建造物時空管理局の本局がこの場所である、此処では様々な次元世界の管理やそして、次元犯罪や違法行為の防止や魔導師の育成が主な活動方針だ、勿論此処を経由するのは彼等だけでは無い

翔

「ふうう、久しぶりに来てみたけどやっぱりスッゲーな俺達の事務所よりも段違いだぜ」

改めて本局内を見渡し自分達の事務所よりも設備が整ってるので若干羨ましくなっていた

フィリップ

「そうだね、しかしそんな事よりも僕は大事な検索で忙しいの…早く【和菓子】の全てを閲覧しなければ」

そうやって本を開き未だに検索に没頭中のフィリップ

翔

「また、しょうもない事にハマリやがって…フェイト達に遅れるだ

る？それにユーノにお前の事紹介してないだろ？ささつと行くぞ」

フィリップ

「ちょ、翔！まだ検索が…」

そう言つて首根っこを掴み無理やり裁判を終えたユーノの所に連れていくその途中クロノに出会い一声かける

翔

「オッス、久しぶり裁判の方上手く行つて良かったな」

クロノ

「ああ、何とか一段落終えたよ…しかしフィリップは相変わらずだな…それとあの事件に付いては、すまないな…君達に苦汁を舐めさせて」

翔

「構わないぜ…それに俺達は闘うと決めたからな…遺族の方達どうなってる？やっぱりまだ気持ちの整理が付いて無いのか？」

クロノ

「そうだな、もう少し時間がな…でも君達だけしかドーパントは倒せない頼りつきりなつて申し訳ない」

翔

「こう言つのは役割分担だぜ？気にするなよ、それと…先局員の人
が妙な事を口走つて居たなまた【魔導師が襲撃された】ってな…妙な事件が起きてるんだろ？隠し事は無だぜ？」

クロノ

「相変わらず情報を逃さないな…その通りだ此処二カ月程前管理局外世界で頻繁に魔導師が襲撃されているんだ…」

翔

「ドーパントやミュージアム絡みか？それとも違法魔導師か？」

クロノ

「いや、恐らく違法魔導師だろうな…しかし、どうも妙なんだ被疑者の魔導師は外傷はそれ程酷くは無い…リンカーコアが異常なまでに小さくなっているんだ…」

その時翔は帽子を被り直し顔が神妙な表情になる、そしてフィリップも本を閉じ検索を止める

フィリップ

「それは、また興味深い話だね…魔導師襲撃事件、そしてリンカーコアが小さくなって居るか翔、これは探偵としては動かずには居られないね」

翔

「そうだな、クロノ俺達で良ければ力を貸すぜミュージアムで有ろうが無かるうが世界を泣かす真似は許されないぜ…それに頑張るって決めたからな…あの子の為にもな」

クロノ

「そうか、何時もすまないな大変な事を頼んでしかし妙に兄貴風が吹いて居るんじゃないか？【お兄さん】！」

やや笑みを浮かべながら翔の顔を見上げる

翔

「って、お前もかよ！つたぐどいつもこいつも…まあ少しずつ頑張るさ…その前にユーノに顔出さないと、また後でな！」

そう言つて一旦クロノと別れ先にユーノの部屋に行ったフェイト達と合流する

フェイト

「翔、遅いよ何やっていたの？」

翔

「ワリイ、ちょっと野暮用がな…さてとそれじゃ改めて会いに行こうぜ」

そう言つて部屋の扉を開け懐かしい顔が目に入った

ユーノ

「あ、翔さん、それにフェイトもアルフも久しぶりだね…そっちの方は誰です？」

翔の後ろに見覚えが無い少年はニヒルに笑いながら答えた

フィリップ

「やあ、久しぶりだね…ユーノ・スクライア！この姿で会うの初めてかな僕だよ翔のデバイスだったフィリップだよ！」

その言葉を聞き目が一瞬点となったユーノはそれから数秒後

ユーノ

「え？ええええええ！？フィリップってあのフィリップ！？だっ

て君はリング型のデバイスだったハズ前にユニゾンタイプって聞きましたけど何故体を？」

フィリップ

「それについては説明したい所だが…高町なのはが揃ってから改めて話そうか…所で君は【和菓子】と言う食べ物について知ってるかい？それは日本を代表するお菓子でね、兎に角種類が豊富で…」

ユーノは訳が分からずただフィリップの解説をずっと聞かされていたその時アラームが鳴り出したそして次にスタックフォンが鳴り出し取り出し耳に当てる

クロノ

『翔！大変だどうやら、例の魔導師の襲撃犯が地球に現れたらしいしかも特殊な結界で覆われているすまないがフェイト共に現場に急行してくれ！』

翔

「何だつて？しかも地球に居る魔導師は…なのはちゃん！？まったく何でこうタイミングが悪いんだよ！」

フェイト

「え？なのはが！？翔急いで地球に行こう！」

そう言うて行ってもたつてもいられずすぐさま転送ポートに駆け出すフェイト

アルフ

「ちよつと、フェイト！なのはの事になったら周りが見えないんだから…んじゃささつとこつちも行くよ翔、フィリップ、ユーノ」

翔

「おう、フィリップ出番だぜ！行くぞ！」

フィリップ

「やれやれ、仕方ない行くよ！ユーノ・スクライア」

ユーノ

「はい！でもなんでなのはを…今は急がなきゃ！」

そう言つて全員転送ポート前にたどり着く丁度その場所にはハード
ボイルダーが待機していた更にスタッグフォンを取り出しコマンド
入力しハードボイルダーのランプが光り緑と黒の転送魔法陣を作り
出し、その中から現れたのは大型自立装甲車【リボル・ギャリー】
がその姿を現す

リボル

『お呼びですか？マスター』

翔

「ああ、早速で悪いが地球の座標設定をしてくれユーノとアルフは
転送ポートを使つてくれ定員は二人が限界なんでな、また後で合流
しよう！」

そう言つてハードボイルダーをセッティングをし座標の入力をする
そしてフェイトの顔を見て頷き有った横のフィリップは邪魔になら
ない様に立ちお互い叫びを上げた

翔&フィリップ&フェイト

「W・モードノバルディッシュ・セット・アップ！」

お互いのデバイスが光だしそれぞれのBJを身に纏いハードボイルダーに跨りフェイトは翔の腰に手を添える

翔

「しっかり掴まって居ろよ、魔導師探偵・黒木 翔、出るぜ！」

アクセルを力いっぱい捻りリボルが展開した転送魔法陣を潜り次元空間を走り抜ける

翔&amp;フィリップ&amp;フェイト&amp;アルフ&amp;ユーノ&amp;管理局sideEnd

場所 次元空間／海鳴市

翔&amp;フィリップ&amp;フェイト&amp;なのはside

現在ハードボイルダーを走らせ一心不乱に地球に急行する二人だが、フェイトの不安な表情を見て声をかける

翔

「大丈夫だぜ、あの子はそう簡単に負けないぜ…だから信じるんだお前がそれに助けるって約束しただろ？半年前に助けられたんだ、倍にして返してやれよ！」

フェイト

「うん、今助けに行くからね…なのは！」

フィリップ／念話

翔、もう直ぐ地球に着くよ念のため変身するよ！

翔

「おう、久しぶりの実戦での変身か！行くぜ相棒！」

そしてお互い別々の場所でメモリを握り左右の腕を曲げWのポーズを取りスイッチ入れる

『CYCLONE/JOKER』

次元の空間を飛び越える寸前二人は大きく叫んだ自分達が変わる為の言葉が響き渡る

翔& amp ;フィリップ

「【変身】！」

フィリップ側のW・ドライバーに刺されたCYCLONEメモリは翔のW・ドライバーに転送され

次にJOKERメモリを差し込みドライバーを一気に展開し再び二つのメロディーが重なり合う

『CYCLONE/JOKER』

その瞬間翔の体が黒の風に覆われ左右の緑と黒の鎧を纏いやがて顔にまで達し仮面を形成し複眼が目を覆い銀のV字の角飾りを伸ばし最後に首の横から銀のマフラーを靡かせ変身完了を告げる様に複眼に赤い光が走る、その時少女の弱々し声が聞こえた

なのは

「助けて、ユーノ君、フェイトちゃん…仮面ライダー…！！！」

紅いゴスロリ服を着た少女がハンマーを叩きつけようとする…しかしその時ハードボイルダーの前輪とぶつかりそのハンマーを押しつける、少女のピンチを救う

ゴスロリ服の少女

「な、何者だ！」

少女は突如現れたW達を見て驚くがW達は先ずなのはの方に顔を向ける

W／翔

『久しぶりだな、なのはちゃん！前に言っただよな！もし本当に困った時は何時でも俺達を呼んでくれ俺達はどんな所でも必ず駆けつける』そう風よりも早くな！』

そう言つてハードボイルダーから降りなのはの安否を気遣い今一度ゴスロリ服の少女を睨んだ

ゴスロリ服の少女

「テメエらそいつの仲間か！」

そしてフェイトの顔を見て頷きお互い背中合わせで立つ先ずフェイトが名乗る

フェイト

「違う！私は時空管理局特別囑託魔導師フェイト・テストロッサ…高町なのはの友達だ！」

それに続くように何時もの名乗りを上げる

W／翔&フイリップ

『そして、俺は、いや…俺達は／僕達は二人で一人の魔導師探偵で二人で一人の仮面ライダーだ！』

お互い左右の腕をスナップさせ親指を天に向け人差し指を伸ばす
同時にこの言葉を相手に語る

W & a m p ; フェイト

『「さあ、お前の／貴女の【罪】を…数えろ！／数えて！」』

今新たな闘いの幕が上がった！

続く

プロローグ2（後書き）

さあて次回でいよいよ本編です！

次回：魔導師探偵W／魔法少女リリカルなのはA・s

新たな敵達と遭遇そして以外にもWと似たような闘い方だった

W／翔『俺達と似ている？でも、そんなんじゃ負けないぜ！』

闘いは更に激化する中なのは結界を壊す為スターライトブレイカーを放とうとするが僅かに届かなかった

フェイト「な、なのは！？いやああああ！！！」

フェイトの悲痛の叫びが聞こえた、そしてWは禁断の技を使う

第一話「^{タタカイ}Tは再び／限界を超えた一撃」コレで決まりだ！

第一話 Tは再び／限界を超えた一撃 前編（前書き）

前回までのあらずじ久しぶりに友人との再会を果たし穏やかな時間を過ごすハズだったが突然の来訪者地球に現れ狙われた白き魔導師の少女、抵抗したが力及ばず倒され、途切れ途切れの声で彼等の「仮面ライダー」の名前を呼んだ、その小さな呼び声に聞き颯爽と駆けつけピンチを救った、そして黒き魔導師の少女も共に駆けつけ来訪者と対峙した果たしてこの闘いは何の意味をもたらす？

第一話 Tは再び／限界を超えた一撃 前編

場所 海鳴市ビル街／結界内

W&a m p;フェイト&a m p;アルフ&a m p;なのは&a m p;
ユーノ&a m p;来訪者 s i d e

ユーノも一足遅れなのは元に駆け寄り一言【遅れてゴメン】と呟き赤いゴスロリ服の少女を睨んだ
そしてフェイトは管理局員してハンマーを持った少女に対し言葉を問いただす

フェイト

「民間人に対しての魔法攻撃は軽犯罪では済まない罪だ、大人しく投降して頂くと此方としてはありがたい、ただし抵抗するなら此方も容赦はしない！」

そう言つてフェイトは右手の甲からバルディッシュを取り出し少女を睨みつけた

ゴスロリ少女

「っち、管理局かよ！それとそっちの緑だか黒だか分からない【仮面なんとか】って言ったけどデメエも管理局の者か？」

フェイトの言葉を聞き管理局員だと理解したが横に居る身長2m近いWの存在を見て少し警戒をしたそれもその筈何故なら仮面ライダーと対峙するのは初めてなのだから

W／翔

『へえ、俺を知らないとは随分と世間知らずだな二度名乗るのは好きじゃねえがもう一度言っぜ、耳の穴かっばじてよく聞いときな！俺は【仮面ライダー】だ、それと残念ながら管理局じゃねえ【魔導師探偵】だ改めて宜しくなRED・LITTLE・GIRL！』

やや半歩前にで自分が何者かと名乗ったしかしその言葉を聞いた後少女顔を赤くしたその言葉には自分を指す特徴的な意味が込められていた

ゴスロリ少女

「おい、今の言ったのアタシの事か？誰が赤いチビの女の子だ！」

ハンマーを握り直しWに向かって突進して来たしかしこれはWの狙いで有る

W／翔

『ちゃんと英語の意味が分かるんだな凄いね、でも残念ながら君の相手は俺じゃない！』

ハンマーを軽く避けフェイトとアイコンタクトを取り少女の相手を任せる、友達で有るなのはを傷付けられて行っても立って居られないその心中を察しフェイトに少女の相手をさせる

ゴスロリ少女

「っち、おい半分野郎デメエは後で絶対潰すからな！」

窓の外に飛び出して逃げる

フェイト

「ユーノ！なのはをお願い！」

フェイトも少女を追って窓から飛び立つ、そしてWもフェイトの闘いを見守るべくハードボイルダーに跨り二人を追う事にする

W／翔

『俺達も一応出る、まあ大丈夫だと思うけどな…なのはちゃん良く頑張った！後は任せてくれ！ユーノは治療宜しく！』

サイクロン・ロードを展開し隣のビルの屋上に目指しこの場を後にしたW

なのは

「…ユーノ君」

ユーノ

「うん、ちょっと待ってて」

そう言つて目を閉じなのはに手を当て治癒魔法をかけ、そして此処まで来た経由を語る

ユーノ

「僕の裁判が終わって、少し間を取って休憩して翔さん達と会つてなのはに連絡して会いに行く所だったんだ、でも突然緊急のアラームが鳴り出してクロノから連絡を受けて海鳴市じゃ特殊な広域結界が展開されて連絡が取れなくて急いで翔さんとフェイト達と来たんだ、そして来た途端なのはのピンチに駆けつけた訳だよ」

なのは

「そっか、良かったのフェイトちゃんと翔君全然変わって無い安心したよ、それとゴメン心配かけちゃって、助けに来てくれてありが

とう…」

ユーノ

「どういたしまして、それとアレは誰？何でなのは？」

なのは

「分かんない、いきなり襲って来たから」

ユーノ

「そうなんだ、でも大丈夫フェイトや【仮面ライダー】だって居る、それにアルフも！」

なのは

「え？アルフさんも？」

一方別のビル屋上の上空ではフェイトがゴスロリ少女と対峙していた、そしてその闘いを近くのビルの屋上で見守るW

W / 翔 & amp ; フィリップ

『結構優先じゃないか？こりゃ出番無かもな／それなら越した事はないよ、早く戻って【和菓子】の検索がしたいよ／悪かったよ、これが終わったら好きなだけして良いから／その言葉忘れないよ？しかしあの少女何者だ？フェイト達より年下だし何よりあのデバイスは妙だ／妙ってどう言う事だよ？そりゃ見ないタイプだが…確かに見ない顔だな…お、助っ人登場だな！』

アルフ

「でやああああ！バリア・ブレイク！」

助っ人参上と言わんばかりに少女の張った結界を「バリア・ブレイク」で崩したが体制を立て直したがハンマーを構え直しアルフに叩き込もうとしたがとっさに防御の結界を張ってそれを受け流すが体制を崩されたフェイトも合流し連携で次第に追い詰め一瞬の隙を付いてアルフのバインドで身動きを封じた

W / 翔 & amp ; フィリップ

『CHECK・MATEだな／変身する必要なかったね、見せ場は彼女達に持つて行かれたね／別に良いさそれに女の子に花を持たせてやるのも必要だろ？／相変わらずハーフボイルドだね／るっせえ！あの子に取っては大事な事だからな助けられた恩無事返せて良かったな、フェイト／やれやれ、それじゃ変身を…』

解除しよとした、その瞬間寒気が走った、そしてアルフも野性的な勘が何かを告げる

アルフ

「フェイト！何か来るよ！」

そして何者かがバルディッシュに一撃与えたその人物はピンクのポニーテールの女性だ、そして後方から雄たけびを上げアルフに突進する白髪の男

白髪の男

「はああああ！！！」

そのまま横蹴りを放ちガード越しにダメージが通り腕が痺れた

アルフ / 内心

「くううう（コイツは使い魔？）」

良く見てみるとその男の頭には獣の様な耳が有る事を確認し自分と同じ使い魔だと確認する一方フェイトのバルディッシュに一撃与えたポーニテールの女性は剣型のデバイスを掲げて一言

ポーニテールの女性

「レヴァンティ・カートリッジ・ロード」

剣の柄の部分から【ガシャン】と機械的な音が聞こえた、この時Wはフェイトの危機を感じ直ぐにハードボイルダーを走らせたしかし向かった場所はフェイトの下の方のビルの屋上そして右手首にスパイダーシヨックを取り付け疑似メモリを差し込む

『SPIDER』

ポーニテールの女性

「紫電一閃！」

剣は炎を纏いフェイトに切りかかった直ぐにフェイトはバルディッシュを前に出し受け流そうとするが両断され更に追撃の一撃を与えそのまま下のビルの方に落下した

アルフ

「！フェイト！！！」

アルフは落下する主人を見て叫んだしかし既にWは駆けつけ落下して来たフェイトを包み込むかの様に受け止めるがしかし衝撃は強く下は陥没しビル内部に叩き込まれた、そしてスパイダーシヨックの特殊ワイヤーを屋上のポールに巻き付け更に自分の背中を下にしフェイトに来る衝撃を最小限にし身を挺してフェイトを守るW

W / 翔

『くううう、フェイト絶対大丈夫だからな!』

そう言つて何階まで落ちたか分からないが衝撃は止まりフェイトに怪我が無い事を確認し仮面の下で安堵の表情を浮かべる翔、そして落下した穴から先程のポーニテールの女性を睨んだ、この時彼の怒りに火を付けた

なのは

「フェイトちゃん…アルフさん…」

傷つく彼女達を見て思わずその名前を口にするユーノも闘いに参戦する為なのはに治癒魔法の強化版をかけ更に結界魔法の緑の魔法陣を施す

ユーノ

「その結界には防御魔法をそして回復を使つてゐるから、それとなのは絶対此処を動かないで…状況は芳しく無いからね」

なのは

「分かつたの…その、ユーノ君頑張つて!」

ユーノ

「うん!ありがとう!さてとあつちは翔さんに任せて僕はアルフの方を援護に…」

そう言つて屋上を飛び立ち闘つてゐる仲間の元に向かう、この時なのはこう思つて居た…どうして自分は肝心な所で【足を引っ張つて】居るとそう思い溜まらなく悔しかった

先程落下したビル内部で瓦礫を押しつけフェイトに呼びかける

W / 翔

『フェイト？大丈夫か？何処か怪我はしてないか？』

フェイト

「私は大丈夫だよ、翔やバルディッシュが守ってくれたから…でもバルディッシュが…」

フェイトに横に杖の部分が切り裂かれそしてコアにまでヒビが入っていた

W / フィリップ

『あのバルディッシュを此処までしかもたった一撃でこれ程とは先程のあの女性實力はナスカの以上の腕前だろう…』

その時蒼の剣士の怪人の姿が頭に過ったが今はそれを考えてる余裕は無かった

フェイト

「大丈夫、本体はまだ無事だから…」

バルディッシュ

『リカバリー』

一瞬光に覆われ破損した部分を修復し形を留める

W / 翔

『しかしゴスロリ少女に続けての来訪者か…正直嬉しくない状況だな、フェイト今のバルディッシュじゃ接近戦は難しいんだろ？それ位分かるぜ、だから俺達が前に出るそれとあのポーニテール女の相手は任せてくれ、多分一番の手練れだ…俺達が適任だ！』

フェイト

「でも、ううん、分かった…頑張つてね仮面ライダー！」

W／翔

『おう！任せてくれよ！』

そう言つて左腕を前に出しガッツポーズを取るW、そしてフェイトは有る事に気づきWに伝えた

フェイト

「それと先のピンクのポニーテールの人だけど翔達と闘い方が少し似てたMAXIMUM・DRIVEの所が兎に角気を付けて」

W／翔&：フィリップ

『俺達と似ている？でも、そんなんじゃ負けないぜ！だつて俺達二人で一人何だぜ？心配するな！それに…／ああ、Wと似た戦法かこれはゾクゾクするね…／ほらなだから大丈夫だ！それに妹に怪我させようとしたんだ、ただで済ませる気はねえよ…』

そう言つて転がつてるハードボイルダーを起こし再び跨りアクセルをかけエンジンに火を入れる…静かな怒りを燃やす

フェイト

「うん！だから行つてらっしゃい！」

W／翔

『ああ、行つてくるぜ！』

そしてお互いの闘いの場に散つた、この闘いはまだ始まつたばかり

なのだから！

第一話 Tは再び／限界を超えた一撃 前編（後書き）

次回に続きます、待っててくださいね！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2146ba/>

魔導師探偵W/魔法少女リリカルなのはA's

2012年1月12日21時53分発行